

12月2（水）第5回市民ワークショップ 記録

富田さん：それでは、第5回移住定住アクションプラン策定のためのワークショップを開催します。さっそく前田先生、進行をお願いします。

前田先生：今日は、そろそろまとめの段階に入っていきます。3つの地区でやってきたものをもう少しまとめてみて、来年からどういう風にやったらいいのかみたいなことを提案していければいいかなと思っています。ただやりたいことだけを出すだけでなく、どういう形でサポートするのかということも頭に入れてもらいながら、もし実現に向けて動ける枠組みも考えていただけるといいかなと思います。また、こうなって欲しいとかこうやりたいということはたくさんありますが、できることはそうたくさんはありません。やりたいこととできることは少し違います。では、できることの観点から見たときに、自分たちのやろうとしていることがどうなのかということも含めて、来年のアクションプランに繋がるような提案を出していただければいいかなと思います。そのために今日はシートを用意しました。各テーブルの上にすでに付箋が貼られているものがあるかと思いますが、基本的にはこのシートを埋めていくということができたらいいかなと思います。シートの内容を見ていきますが、まず、大きくは、2種類の組織があります。伊予市移住円卓会議（仮称）という名前が決まっているのですが、伊予市の人たちが丸いテーブルを囲んで、同じ平等な立場で話し合いをしましょうというのが円卓会議で、その下が移住・定住ワンストップ窓口ということで、その名前を決めることができたらいいかなと思います。みなさんの柔らかい頭で考えてもらって、窓口の名前はこんなのが良いなといった話ができれば良いかと思います。あと、ワンストップ窓口にいる人ですね、愛媛県だと、東京に移住コンシェルジュという人がいて活動していますよね。でもそういう名前だとなかなか分かりにくいので、もう少し分かりやすい名前を考えてもらって、その人たちはどう関わったら、あるいはどういう風になったらいいかなという提案をしてもらったらいいかなと思います。また、ワンストップ窓口のリーダー的な存在の人と、実際に動く、言ってみれば、ワンストップ窓口にいる伊予市内の住民団体を統括する人と、後はそれぞれの団体の中にいる代表の人のそれぞれの愛称を考えてもらいたいと思います。そのあたりをまず、最初に考えてもらって、そのあと具体的にどういうことをやるかというアクションプランがありますね。目指すべき未来、どういう地区になったらいいのか少し話し合ってもらって、出し合ってもらいます。そしてそういう風なことをするためにどういう人材がいるのか、誰がどう関わったら良いのか、どういう風に協力したら良いのか、どんな協力があったら良いのかという人材に関することですね。それから未来を担う、補う人材なので、どんな人なのか、どんな人と暮らしたいのかというようなターゲットですね。そういう人材に対してどういう風な人達がそこを担ってくれるのかというターゲットの話です。それから何から始めるか、どういうプロセスでやっていくのかといった話ができれば良いかと思うので、その辺を、皆さんのアイデアを出してもらいながらできたら良いという風なことがあります。あと、それぞれのグループがありますが、これをやるためにどんなところとネットワークを組んでやったらいいのか、というような連携先があれば少し書き出してください。先に

貼ってある付箋は検討委員のメンバーでやっているものなので、その説明をしてもらいながら、まずは19時半までは、ワンストップ窓口の名前とそこに関わる人達の名前を考えてください。

～各グループでワークショップ～

前田先生：それでは、各グループで話し合ったことを発表して欲しいと思います。1番は双海地区です。お願いします。

双海地区の発表者：ワンストップの窓口の名称は、移住よろずや伊予市民、いいよ伊予暮らしなど意見があがった中で、第一候補は、いよいよよ暮らし案内所です。代表は伊予暮らしマスター、伊予暮らし案内人ということになっております。連携先については、双海地域事務所、小学校、保育所、公民館と連携していきます。あと、地元の有力者で色々動いてくれる方で、亀岡さん、岡田さんです。それから各種団体、生活研究協議会、あと地元の代表の人です。しかし、広報委員さんなどに頼り過ぎないようにという話もありましたが、広報委員、区長、PTA、先生、親、移住者ネットワークも連携します。それと地元のお店は地元の情報をよく知っているので、商工会のお店とかシーサイド公園、それから協力隊 OB の方、それからまちづくり学校双海人が文庫を色々作っているの、そちらから情報を流してもらいます。また、地元のお医者さんと連携が必要です。

目指す未来のところは、いろんな人が帰って来たいと思う魅力あるところを作っていくことです。

また、自由に入出りがしやすいです。帰ってくるのも帰りやすい、外から入ってくるのも入りやすい環境を作っていこうということになりました。人材については、情報通リストを勝手に作ります。連携先のところにもありますが、情報通の方のリストを作ってその人達に協力をしてもらいます。情報を得るためにどうしていくかというところで、双海地域事務所が率先して地元をまわって情報を得ていきます。広報委員区を細かく回って情報を得ていくのと、情報を持っている人に直接足を運んで話してみます。例えば、老人憩いの家の人達です。いろんな地区のお年寄りが集まっているのですが、そういうお年寄りの人達は色々な情報を持っているので、そういう人のところに直接出向いて行って、空き家の情報や地域の情報を仕入れていきます。それからお寺です。お寺は檀家の情報を持っているので、お寺や郵便局などと連携をして情報を得ていきます。それから、受け入れ体制のところプラスで言ったのは、キャラバン隊として地元を順々に回っていこうということです。あと、簡単に説明できるように、紙芝居や喜劇などを用いて簡単に説明していければ良いのではないのでしょうか。それから、空き家を見つけるために各場所を回った後に、空き家を個別に目をつけて、その空き家を集中して落とそうとしていけば空き家を落とせるのではないかという話がありました。あと確実に住むところがないので、若者の移住も難しいし、帰ってきたくても帰って来ることができません。そこで若者が定住できる住宅を作ります。例えば、ふれあいの館が宿泊施設としてありますが、冬場は利用が少ないので、その期間には移住を考えている方のための、期間限定でそういう人に安い値段で貸し

出してはどうかという意見がありました。また、遊休施設として下灘中を改装して使ったら良いのではないのでしょうか。また、シーサイド公園にじゃこ天売り場がありますが、非常にお客さんが多いので、そこに乗っかって移住を宣伝してもらおうという内容をじゃこ天のラベルに書いてもらえれば、そういう情報が口コミで広がるのではないのでしょうか。以上です。

前田先生：ありがとうございました。では、佐礼谷地区お願いします。

佐礼谷地域の発表者：窓口の名称は、分かりやすく、伊予市移住サポートセンターです。そして、そこは移住相談員、あとは地区の方にはされだに暮らしの相談員が良いと思います。非常にストレートです。また、しゃれで出したのは、良い住まいと書いて“良住”ということで、されだに良い住のサポート員です。

最初は、お試し住宅が欲しいとか地域の人の趣味を中心に考えようという話が出ていました。佐礼谷の方でも、小学校の全校生徒が13名で、地元から小学校がなくなると地域の元気がなくなるのが早くなるので、まずは学校を維持させることを第一に考えようということになりました。学校を維持させるために、ゆずこしょうのような特産品を作っているのですが、実際のところ仕事は松山に通いにいっても良いのではないのでしょうか。言ってみれば、子どものいる方に住んでもらうということです。住んでもらうためには、地域で子育ての出来る町を目指すということがビジョンの核になりました。この事業に関わる人材としては、子育てに関するような人です。

佐礼谷の保育所は休園状態なので、例えば、保育士の資格を持っているが、活動をしていない方です。それに携わる、いろんな保健施設が関係してくるということになります。ターゲットとしては、子育て家族と今後子どもを産むと思われる独身の女性が考えられます。課題についてまでには話はいきませんでした。佐礼谷の良さは地域で子育てができる町、ということに基づいてこれからアクションプランを考えていきます。以上です。

前田先生：ありがとうございました。では、郡中地区お願いします。

郡中地区の発表者：まちづくり郡中の報告をいたします。窓口の名前は、伊予市においでん課です。電話を取ったときにとても良いのではないのでしょうか。頼まれ隊も良いと思います。昔のことでいうと、あの人に頼まれたら仕方ない、というような人になってもらいます。頼まれ隊長、頼まれ隊員です。まちづくり郡中のアクションプランに関しては、全部が煮詰まったわけではありませんが、まちづくり郡中ならではのアクションプランのこだわりをもっていいのではないかという意見がありました。あくまでも、まちづくり郡中の地区にある商店街の中のアクションプラン、という風に焦点を絞りながら話を進めました。目指す未来には、起業者を呼び込んで、起業者を継続します。まちの商店街の商店を閉めません。跡継ぎになってもらいますし、そういう人の呼び込みをこれからずっと続けていきます。人材としては、そういうことにふさわしい人を人材として、今いる地域おこし協力隊の人たちも継続して配置することを含めてやっていきます。やって欲しい仕事

として、仕事を探しやすいようなホームページを立ち上げて、伊予市に関心を持った人が気軽に暮らせるお試し住宅、こういうことを人と話しをして実現できる人を人材として探していこうということです。ターゲットとしては、来ていただく人そのものが起業してプランナーとして、女性目から見たまちの様子を描いてくれる人です。そういう人自身をターゲットにしていきます。それと、ものづくりに関わる手仕事、大工さん、左官さん、そういう人たちが郡中のまちにはふさわしいのではないのでしょうか。ふさわしい人のイメージ作りを作りながら人材とターゲットを同じようにしていきます。あと、まちづくり郡中の活動そのものを知らない方がいらっしゃるので、まちづくり郡中そのものの活動もお知らせをすることによって、一層こういったそれぞれの事柄が充実していくのではないのでしょうか。今日は女性の方がグループに多かったのですが、やはり商店街の活性化にしても女性目を変えていくと言うことが一番ふさわしいのではないのでしょうか。以上が結論であり、今後の方向性ではないかと考えます。以上です。

前田先生：ありがとうございました。少しずつ軸が決まってきた、アクションプランの中身が具体化してきたかと思えます。次回、総まとめの会になるかと思えますが、今日提案していただいたアクションプランを少し事務局の方で整理をしながら、皆さんの協議の中でより具体的なアクションプランとしてまとめていけたらと思えます。今日も長時間大変だったと思えますが、より良いアクションプランを作るために次回もご協力いただければ良いなと思えます。

富田さん：前田先生お疲れ様でした。色々なアイデアを頂いたことをまとめて皆さんにお示しが年明けにでもできればなと思えます。具体的な細かいアイデアについては、アクションプランの方には載らないかもしれませんが、大事なものは、アクションプランは作るのですが、そのあと実際にそれに沿って動いていくのが一番重要なので、皆さんで来年の春以降、皆さんと一緒に協力しながら作ります。今回 5 回目で市民ワークショップは終わりますけれども、それぞれの各地域が連携して、連携したものの上に移ってくるかというものがありますので、そこをひとつのキーにして皆さんと情報交換しながら、皆さんと協力しながら来年やっていければなと思えます。皆さん長時間ありがとうございました。それでは皆さん良いお年を！

